

# 道徳科学習指導案

日時 平成29年5月26日（金）第3校時  
対象 1年3組 男子20名 女子20名 計40名  
指導者 教諭 榊 隼 弥

## 1 主題名 「生命の尊さ」

## 2 主題設定の理由

すべての生物には命（生命）があり、洋の東西を問わず人類は、生命をどのように捉え理解するかに多くの時間と労力を注いできたと言っても過言ではない。またそれは今日の豊かな文化や文明を生み、芸術や科学、哲学や宗教など人としての在り方や生き方に大きな影響を与えてきた。さらに、生命は自他において一つしかない大切なものであり、人を含む生物の存在そのものと密接な関係にあるといえる。そのため我が国では自分の生命は他の生命とのつながりの中で生かされているという生命観や倫理観などが生まれ、生命を尊重する心情や態度が育まれてきた。しかし、生活様式の変化により、生命の尊さや、他の生命によって生かされているという感覚が希薄になっている面が見られる。近年、学校においても、給食の時間の始めに「いただきます」という言葉を使うように指導するか否かが議論になる事例があった。給食費を支払っているのだから、当然食事をする権利があるという考えには経済観念上、一定の合理性はあるのであろうが、次世代を担う子供たちが、自分や他の人、人間以外の生物の生命の尊厳に気付き、互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつことは、社会の一員として幸福で充実した人生を送るうえで欠かすことができないことと考える。

中学生の時期は、自我が芽生え、様々なことに挑戦し可能性を広げたり、自信を深めたりする時期である。しかし、同時に失敗や躓きから自分を過小評価したり、自尊感情を失ったりしやすい時期でもある。そのような時期の生徒に、生命がかけがえのない大切なものであり、受け継ぎつなげるものであること、そして毎日が、多くの生命によって支えられ、生かされていることなどを、考え議論することによって、自分や他者の生命の尊さについての意識をより深め確かなものにさせたい。

本学級の生徒は、明るく素直であり、普段の授業をはじめ、学校行事や生徒会活動等に意欲的に参加し、目的の達成のために進んで協力することができる。しかし一方で、自分のやりたいことが優先されすぎるあまり、他者の存在への配慮に欠ける言動が見られた。また、昼食時に安易に食べ物を残すなど、他の生命により自分の生命が生かされているという実感が希薄な面も見られる。

指導にあたっては、教材を通して自分の生命の尊さを感じさせ、他者の生命も尊重していこうとする心を一層育ませたい。また、人間以外の生命を尊重する心情を伸ばし生命の尊さについて生徒一人一人が理解を深めることができるように、ペアやグループなど多様な学習形態による議論を通して多面的・多角的に考え、理解を深めさせたい。また、生命の偶然性や有限性、さらに連続性などより深い学びにつなげていきたい。

このような考えに立ち、本主題を設定した。

### 3 学習指導要領との関連

本主題は学習指導要領の次の内容項目と関連が深い。

内容 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

### 4 生徒の実態（実施日：平成29年4月13日 対象：1年3組 男子20名、女子20名、計40名）

番号	質問	回答		理由等
①	自分の命を大切にしていますか。また、それはどのようなときですか。	はい	40	事故を見たとき。災害時に身を守るとき。 危ない作業をするとき。 危険な場所があったとき。毎日。 つらく苦しくても生きようとするとき。 楽しみがあるとき。
		いいえ	0	
②	他人の命を大切にしていますか。また、それはどのようなときですか。	はい	40	自殺のニュースを見たとき。 他人と会話をするとき。危険な道具を使うとき。 人が危ないとき。どんなときも。 いじめをしない。けんかでも手を出さない。 友だちといるとき。 病気や怪我の人の世話をするとき。 できることはあまりない。
		いいえ	0	
③	家畜や魚の命は大切だと思いますか。また、それらの命が失われるときにどのように思いますか。	はい	40	かわいそう。悲しい。残酷だ。 うまく言葉で表せない。ごめんなさい。 長生きしてほしい。ありがとう（感謝）。 死を無駄にしないと思ってがんばる。 おいしく食べたい。仕方ない。どうも思わない。 何も思わずおいしく食べている。
		いいえ	0	
④	あなたは命の誕生の場面に出会ったことがありますか。また、そのときどのような気持ちになりましたか。	ある	21	感動した。 うれしかった。 楽しみだった。 母が活着ている安心感と生まれた喜び。 小さい命のスタートを見て、すごい、面白いとおもった。 これから頑張れ。
		ない	19	
⑤	かわいがっていた動物を亡くした経験がある人は、そのときどのような気持ちでしたか。			悲しくなった。言葉で言い表せない。 自分の育て方がいけなかった。感謝。 もっと世話をすれば良かった。 もっと大切にすれば良かった。 この経験を次に生かしたい。 安らかに眠って。怖い。
⑥	絶滅危惧種を保護する活動は大切だと思いますか。また、それはなぜですか。	はい	38	動物が絶滅するかもしれないから。 大切な命だから。観光資源が減る。 将来、あの頃の人間は思いやりがないと言われる。 二度と見たり会えたりしなくなる。 動物は大切にしないといけない。 自然は大切にしているものだから。生態系が崩れる。 自然や動物を守ることが人間の使命だから。 有名だから。
		いいえ	2	人間が手厚く保護すると野生に戻れない。 自然のままがいいから。

〔考 察〕

①～③に対する回答から、生徒は、命は大切に扱われるべきものであるという認識はあり、④に対する回答からも、命の誕生が感動や喜びをもたらす尊いものであることを理解できていることがわかる。

しかし、⑤の質問に対して、死に直面して素直に悲しみを抱く生徒がいる一方、「この経験を次に生かしたい」とする個体それぞれがもつ生命の有限性に気付いていないと思われる生徒がいる。また、「もっと世話をすれば良かった」などと回答していることから、①～③で命を大切にしていると回答しながらも実践できていない実態が見て取れる。命が大切であるということが、外発的に享受されたことでとどまり、道徳性が内面に根ざしていない生徒もいると考えられる。

あるいは、⑥の質問に対して、「自然は大切にするもの」「自然や動物を守ることが人間の使命」など、命は守らなければならないものとする人間の立場からの回答が多いなか、「人間が手厚く保護すると野生に戻れない」「自然のままがいい」など、命を守ることが必ずしも良いとは限らないと考える、人間とは異なる立場からの回答も見られた。

したがって、本授業において、多様な立場や価値観をもとに議論させ、本学級の生徒に改めて命の大切さに対する考えを深めさせることで、生徒の内面に根ざす道徳性を育むことにつながるものとする。ひいては、将来にわたり能動性や独自性を発揮しながら創造的な学びを続けていく態度および道徳的実践意欲を育みたい。

## 5 ICEモデルを用いたルーブリック

	Iを達成している段階	Cを達成している段階	Eを達成している段階
創造的に考える力や考えようとする態度	生命の尊さについて考え、自分なりの考えをもつことができている。	立場カードを使って議論したり、友達の意見を踏まえて考えたりすることによって、自らが捉えていた生命の尊さについて多面的・多角的に捉えることができている。	振り返りシートを使ってこれまでの経験を踏まえて内省し、深まった価値を伴った行動をとろうとしている。

## 6 本時の実際

### (1) 本時の目標

教材「ライオンと子犬」を通して、生命の尊さを感じさせ、尊重しようとする心情を育むとともに、生命が互いに支え合って生き、生かされていることに気付かせ、理解を深める。

### (2) 教材について

本教材は、ロンドンに訪れた人気のサーカスを見物したいと、男が見物料の代わりに道ばたの子犬を拾い、それを猛獣使いが見物人を喜ばすためにライオンの檻に入れる場面から始まる。見物人は子犬がライオンに食べられるスリルを想像し盛んに拍手を送り口笛を吹く。いざ子犬が檻に放り込まれると見物人は子犬の運命を固唾をのむが、ライオンは子犬を襲わない。業を煮やし猛獣使いはライオンを興奮させようと血の滴る馬肉を檻に放り入れるが、ライオンはそれを二つに分け、小さくかみ切り子犬と一緒に食べる。最後にそれを見た見物席の片隅から拍手が起こり猛獣使いは困惑するという話である。

人間を含め全ての生命はかけがえのない大切なものであり、何物にも代え難いものである。しかし人間は時に生命の尊さを見失い、それらをあたかも商品のように取り扱ったり消費したりしてしまう側面がある。また同時に人間は、スリルや刺激を求め、生物の命を懸けた決闘などを好む側面もある。人間も含め生物が命をつなぐために他の生物の命を「いただく」とことと本質的に大きく違い、生命の存在を単に自分の欲求や快楽を満たすための手段に変えてしまうこともある。

本教材は子犬の命を見物料の代わりにした男と、それをサーカスを盛り上げるための道具とした猛獣使い、さらにそれを楽しもうとする見物人の心理と、それらを意に介さず命のつながりの中で互いの命を尊重しようとするライオンと子犬の心理とが対照的に描かれている。生徒はこれまでの生活経験からその両面に共感できると考える。そのため本教材は、生命の尊重に気付きながらもそれらを真に実行し得ていない自分自身と重ね合わすことに有効な教材であると考えられる。

指導にあたっては、教材を通して生徒に、登場する人物や動物が子犬の命をどのように捉えているのかを、それぞれの立場で多面的・多角的に考え、議論させたい。はじめに男や猛獣使い、見物人の行動や考えは正しいのかということ議論させたい。生徒から子犬の命を大切にしない行動や考えへの非難や、ライオンは何かを食べないと死んでしまうので構わないという意見などが予想される。次に、猛獣使いがライオンに与えた馬肉にも目を向けさせ、子犬は命を落とさなかったが、馬は命を落とし馬肉になってしまったことに着目させたい。この議論の深まりによって、命を「奪う」とことと命を「いただく」とことの違いに気付かせたい。

以上のことから、本教材は生徒がこれまでの自分の姿から自己課題を設定し、多様な学習形態の中で考え、議論することを通して、生命の尊さについての理解を深め、今後自他の生命を一層尊重する心情や態度、実践意欲を育むことができると考える。

### (3) 指導過程（※は、研究の重点に対応している。）

過程	学習内容・主な発問	時間(分)	生徒の反応例	教師の働きかけと留意点
導 入	1 アンケート結果から、命の大切さを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">アンケート結果から何か気づいたことがありますか。</div>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員が命を大切にしていることが驚いた。</li> <li>・ 命を大切にしているといながら理由があつけないことに気づいた。</li> <li>・ 生き物の世話を怠って死なせてしまったことがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート結果から、命の大切さについて考えようとする意欲を高める。 ※Ⅱ-1(2)</li> </ul>
	2 自己課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「命を大切にする」ためには、どうすればよいのだろうか。</div>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の人や魚、家畜が死んだときにかわいそうと思う。</li> <li>・ 命が失われたとしても、悲しいと思うことができること。</li> <li>・ 魚や肉などの料理が出たときに残さずに食べること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「命を大切にするためには、どうすればよいのだろうか」という、発問をすることで、生徒がこれまでの経験から自己課題を設定できるようにする。 ※Ⅱ-1(1)</li> </ul>

過程	学習内容・主な発問	時間(分)	生徒の反応例	教師の働きかけと留意点
展 開	<p>3 教材を読みながら、問題だと思っ場面を考える。</p> <p>問題だと思っ場面に線を引きましょう。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛獣使い、ある男、見物人が子犬の命を軽んじていることが問題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が教材を読むときに留意する視点を明確に伝える。 ※Ⅱ-1(1)</li> </ul>
	<p>4 命について考えるうえで必要となる立場を多く立場カードに書く。</p> <p>命について考えるうえで必要となる立場を多く立場カードに書きましょう。</p>	3	<p>&lt;立場カード&gt; ある男、猛獣使い、見物人、ライオン、子犬、馬肉(馬) 楽屋から馬肉をもってきた人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多面的・多角的に考えられるように立場カードを記入させる。 ※Ⅱ-2(3)</li> </ul>
展 開	<p>5 命を大切にしている立場と大切にしていない立場について考える。</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛獣使いは、子犬を檻に入れたので大切にしていない。</li> <li>ある男は、子犬を持ってきて大切にしていない。</li> <li>ライオンは、子犬を守っているから大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立場で、命についての捉え方を把握させ、本当に命を大切にしているのか、大切にしていないのかを考えさせる。 ※Ⅱ-1(3)</li> </ul>
	<p>6 ライオンは、本当に命を大切にしているのか議論する。</p> <p>ライオンが命を大切にしているのかどうかを考えるうえで必要な立場は他に何がありますか。</p> <p>ライオンは命を大切にしているのかな、大切にしていないのかな。</p>	18	<p>&lt;立場カード&gt; 子犬の親、馬を育てた人、馬の親、馬を殺した人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライオンは何か食べないといけないからいいのではないか。</li> <li>馬は殺されてよくて、なぜ子犬はよくないのだろう。同じ命なのに。</li> <li>馬は十分生きてかもしれないけど、子犬はまだこれから生きる時間があるから助けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もう一度、立場カードを記入させることで、より多面的・多角的に考えさせる。 ※Ⅱ-2(3)</li> <li>大多数が命を大切にしていると思っライオンを様々な立場から考え、議論することで、命の偶然性・有限性・連続性を考えさせる。 ※Ⅱ-1(3)</li> </ul>
終 末	<p>7 学習活動を踏まえて、新たな自己課題を設定する。</p> <p>「命を大切にする」ためには、どうすればよいのだろうか。</p> <p>8 振り返りシートに道徳的価値についての考えを記入する。</p> <p>9 教師の話聞く。</p> <p>命の有限性・連続性・偶然性について考えてみましょう。</p>	5 3 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>生きていくうえで必要な命以外は奪わないこと。</li> <li>生きているものも死んでいるものも何も思わず食べるのではなく、感謝しながらいただく。</li> <li>相手の気持ちを考えること。</li> <li>人を大切にすることが命を大切にすること。</li> <li>食べたものと、一緒に生きていくこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライオンの立場を自分たちの立場に置き換えることで、命の尊さについての考えを振り返らせる。また、他教科との関連も考えさせる。 ※Ⅱ-2(1)(2)</li> <li>道徳的心情や態度、実践意欲の高まりに繋がられるようにする。</li> </ul>